

第1回 THE シガパークビジョン検討委員会 議事概要

1. 開催日時：令和7年11月5日（水） 9：30～11：30
2. 開催場所：滋賀県庁東館7階大会議室（Web会議併用）
3. 出席者：上田 洋平（滋賀県立大学地域共生センター）委員
福井 亘（京都府立大学 生命環境科学研究科）委員
高木 浩文（公益財団法人 淡海環境保全財団）委員
辻 祥子（滋賀県シェアリングネイチャー協会）委員
岩寄 博論（武蔵野美術大学 造形構想学部）委員（Web）
廣瀬 香織（一般社団法人ママサポートコミュニティ）委員（Web）
※欠席 宮本 麻里（合同会社 LOCO）委員

（敬称略）

4. 議事 (1) 開 会
(2) THE シガパークビジョン検討委員会について 資料-1
(3) 議 題
THE シガパークおよびこれまでの取組について 資料-2
THE シガパークビジョンについて 資料-3
利用者等への公園に関する意見聴取の方法について 資料-4
(4) 閉 会

5. 議事内容

(1)THE シガパークビジョン検討委員会について

事務局より、THE シガパークビジョン検討委員会設置要綱を説明（資料-1）。

上田委員（滋賀県立大学）が全会一致により座長に選出された。

(2)THE シガパークおよびこれまでの取組について

事務局より、THE シガパークおよびこれまでの取組について説明（資料-2）。

<主な意見>

（委 員） 予算がないと進まないため短期的には財源確保が必要。

また、長期的視点で理想を検討することも必要で、目に見えにくい景観や生態系、文化を守る公共資産としての価値を重視すべき。

（事 務 局） 第2世代交付金制度により、財源を確保できている。長期的な確保については今後議論していただきたい。

（委 員） 横連携が取りにくい行政組織の中で、部局をまたぐプロジェクトであることが最大の特徴であり、独自性があり、重要なことである。

また、一つの公園で多層的なプログラムが垂直的に立ち上がることで、それらが県内で点から線、面へと水平的につながっていくことがポイント。

(事務局) 様々なイベントが開かれているが、そのノウハウが共有できていない。共有すれば、もっといろいろなことができる可能性がある。

(委員) 各部署が所管する公園は関係法令や整備の財源が異なり難しい面もあるが、今回、部署を超えて大きなビジョンをつくり、各部署がそれを共有した上で動いていけると良い。

(委員) 今後、各公園の個性を生かした「県全体の公園像」のイメージを描くことが重要。

(3) THE シガパークビジョンについて

事務局より THE シガパークビジョンについて説明 (資料-3)。

<主な意見>

(委員) ビジョンの進め方は県全体で考えるのか、個別の公園ごとに考えるのか、位置づけを明確にしてほしい。

(事務局) この検討委員会では、個別の公園の話は細かくするのではなく、滋賀県全体の大きなビジョンとしてご議論いただきたい。

(委員) 県民目線で市町、民間施設をビジョンの対象に含めるのは良いことであるが、各施設の実態の把握や調整の場の設定、情報共有が必要。

(事務局) 市町の公園を全部県営の公園にしようというのではなく、どのようにいっしょに進めていくのか骨子案で少しずつご提示していきたい。どのように巻き込んでいくかについてもご意見をいただきたい。

(委員) 市町、民間に対して、ビジョンが上から目線にならないように配慮し丁寧に説明していくことが必要であり、しっかり情報発信や情報交換していくことが大切。

(事務局) 現段階ではしっかり情報発信できていないところがあるため、今後は事前に情報発信をしていきたい。

(委員) 長期的なビジョンは、どの程度の期間で検討するのが大切であり、10年単位では収まらず一世代で完結できるものではなく、次の世代に継承する前提での作成が必要。

(事務局) まだ定まっていないが、10年では収まらないと思っている。知事は最近2050年とか2100年とか超長期を目指して各局に指示を出している。年期を定めない、遠い目標のようにならざるを得ないと思っている。

(委員) 参考例として、明治神宮の森は150年先の植生を見据えた森である。

(委員) 次の世代に継承するにしても、将来のことをどこまで決めていけばいいのか。また、人口減少のデータなども踏まえて検討していくのか。

(事務局) 人口などのデータを踏まえて学ぶ機会などは設けておりません。

(委員) 理想として検討するには 100 年単位でもいいが、私達が責任持っている範囲としては 25 年ぐらいまでである。ランドスケープデザインは 25 年、50 年ぐらいのスパンで考えている。

(委員) 水と緑と人と繋がるっていうワードは素敵であるが、そもそも誰のために THE シガパークビジョンをつくるのか、自分事として公園を捉えてもらうための工夫が必要。

(事務局) 誰のためかという問いに対しては「公園利用者」と考えている。子供だけではなく、幅広い県内外の利用者が利用しやすく、より楽しく使えることを目指している。

(4)利用者等への公園に関する意見聴取の方法について

事務局より意見聴取方法について説明（資料-4）。

<主な意見>

(委員) 様々な対象者にアンケートをするのであれば、各アンケート結果を比較できるように項目を揃えると良いだろう。

(事務局) 比較できるように配慮し、注意しながら進めていきたい。

(委員) アンケートは、できるだけ集めた方が良いので、アンケート対象は、大学等の学校関係や地元の銀行等の企業も含めると良い。

(委員) アンケート調査票のレイアウトは、自分のためのアンケートとして捉えてもらえるように、見やすいデザインの工夫が必要。

また、アンケートをすること自体が THE シガパークの趣旨説明ともなるので、わかりにくく、難しいアンケートだと THE シガパークのイメージが悪くなり、他人ごとになってしまうので、わかりやすく、THE シガパーク位置図を加えると良い。

(事務局) デザインの工夫をして進めていきたい。

(委員) 最初の設問である THE シガパークの認知度は最後に持って行き、良く利用する公園の設問が最初の方が、公園のアンケートとして回答しやすいだろう。

(委員) 今回はビジョン作成にあたっての意見徴収ということであるが、具体的なビジョン骨子案作成後の意見徴収も必要だろう。

(事務局) アンケートを取った後は、パブリックコメントを想定している。

(委員) 公園は、いろいろな人のエピソードや体験にあふれた記憶が積み重なった場所でもあるため、自身の体験に関する設問があると良い。

以上